

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和4年 4月 15日

事業所名 もやいのえんがわ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	○		児童の活動状況によってスペースの使い方を変えている。	活動する場所が3か所ほどに分かれているため、死角ができないように職員を配置している。
	2 職員の配置数は適切である	○		十分な配置ができるように考慮している	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		危険のある場所には保護カバーなどを設置している。	児童の状況によっては玄関前の階段は、必要な場合は補助板を行うなどの配慮を行う。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		8~9割の職員が参加している	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		普段、保護者様から聞けないご意見をアンケートで確認して業務改善を図る。	保護者様に十分に伝わってない情報があるため、情報共有を十分に行っていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		この評価結果をホームページで公表している。	保護者様へ周知していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者の評価を参考に業務改善に繋げている。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修プログラムを組んで毎月リスキーマネジメントも実施している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童との面談を行い、児童の希望に沿った内容も取り入れ、計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		発行されているアセスメントツールを参考に、事業所に合うツールの作成・使用を検討する。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている		○	個人で計画したものを共有して実施していた。	チームで立案したプログラムを提供していく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用する児童が多く活動ができるように活動内容を調整した。	事業所での活動が発育・発達、自立支援に繋がるようにプログラムしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		主な活動スケジュールを決めて支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童と個別で面談する時間を設けている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		各活動での担当を決めて支援している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後には必ず職員から児童の様子を振り返ってもらう	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		経過記録は詳しく記載している	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリングを定期的実施している		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		状況に応じて基本活動を複数組み合わせ合わせて活動している		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が必ず参画している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		各機関に対して適宜報連相を実施している	学校との情報共有が行き届いていなかった場面もあった為、連携を強化していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		受け入れ態勢は整っておらず検討中
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		必要に応じて報連相している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		該当者なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて療育センターなどに連絡している	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	公園などを活用	現在は非常に関わる機会が少なくなっている
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		日程的に参加可能な協議会は参加できるように調整していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		電話、送迎時などお話しする機会を作っている。直接お話しすることが難しい場合はメールでも対応している。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		今後検討が必要	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		面談時に不足点を説明する	説明を行っているが、不十分になっている保護者様もアンケートで把握できた。疑問点が解消できるように説明していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡ノートを導入している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者のご希望に沿うため、希望があれば保護者同士を繋ぐなどの対応を検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		必要に応じて管理者、責任者が対応できるように組織で動いている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報誌ではない日々、ブログを更新し保護者が閲覧できる状況にしている	
	35	個人情報に十分注意している	○		書類や発言ともに個人情報に留意し対応している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡ノートを導入している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		マルシェなどを開催し地域住民を招待子供たちも交流する	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	定期的に確認、見直しを実施。	保護者に伝わっていない状況もあった為、周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に訓練等を実施	建物を共有している保育園ともより一層連携を高めていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修プログラムに組み込み済み	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		児童自身に大きなケガの恐れがある場合や他者を傷つけてしまいそうな場合は身体拘束を実施するか協議し決定している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		管理栄養士と相談して食事には気をつけている	定期的に確認を実施する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		毎月リスクマネジメントカンファレンスを実施している	